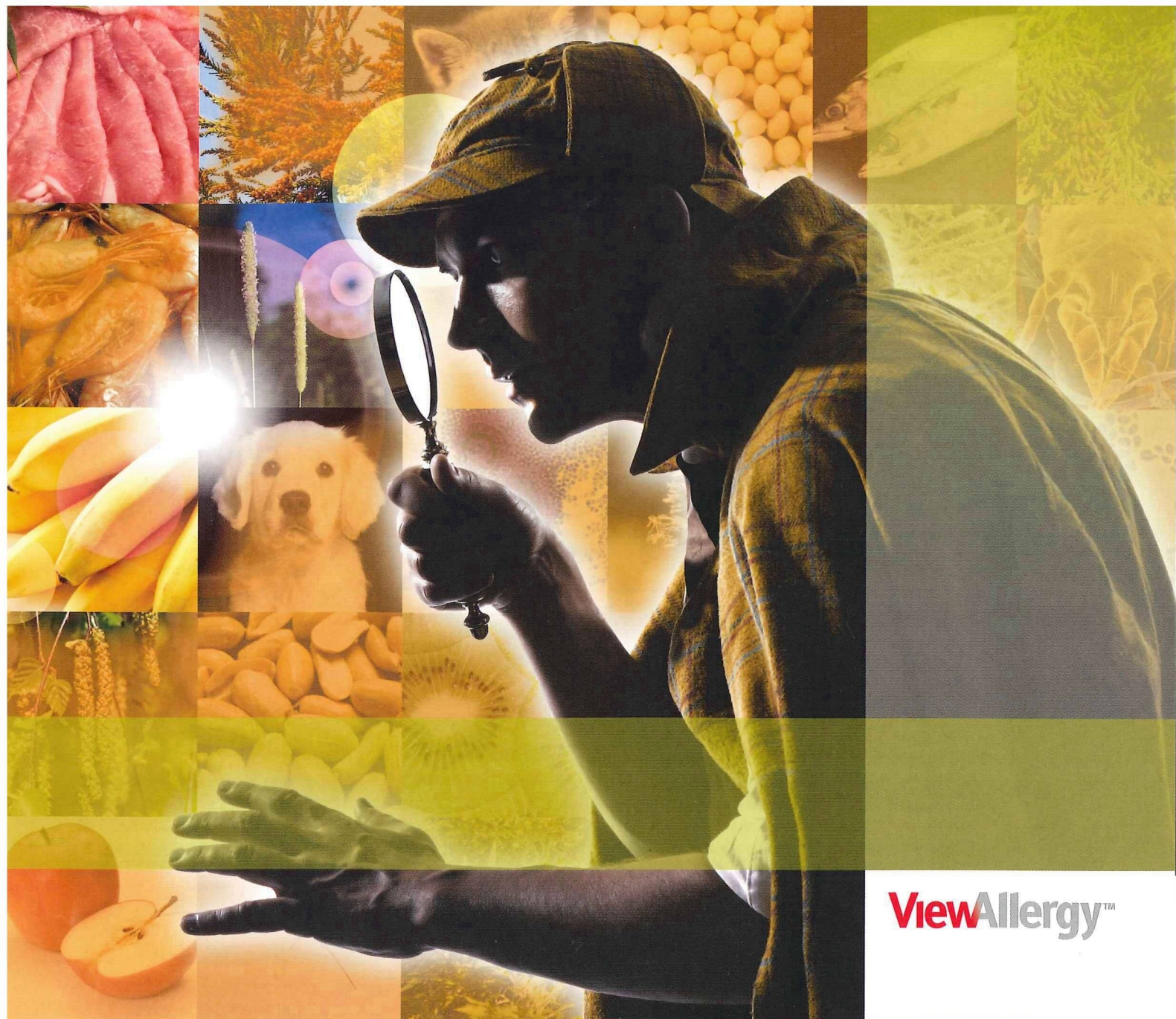




ViewAllergy™

Product Catalog

View アレルギー 39

39の主要なアレルゲンに対する特異的IgE測定が
一度の少量の採血でできる新しいアレルギー検査です

Thermo
SCIENTIFIC

Viewアレルギーは39項目になりました

重要な39項目の特異的IgEを少量の採血で同時に測定できる、新しいアレルギー検査です

今までの36項目

吸入系 その他のアレルギー 13

室内塵	ヤケヒョウヒダニ、ハウスダスト1 
動物	ネコ皮膚、イヌ皮膚  
昆虫	ガ、ゴキブリ 
樹木	スギ、ヒノキ、ハンノキ(属)、シラカンバ(属) 
草本類	カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ 
空中真菌	アルテルナリア(ススカビ)、アスペルギルス(コウジカビ) 
真菌その他	カンジダ、マラセチア(属)、ラテックス 

食物系アレルギー 18

卵	卵白、オボムコイド 
牛乳	ミルク 
小麦	小麦 
豆・穀・種実類	ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米 
甲殻類	エビ、カニ 
果物	キウイ、リンゴ 
魚・肉類	マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉 

新規追加3項目

吸入系アレルギー 1項目

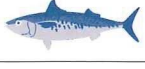
オオアワガエリ
主要なイネ科植物であり陽性率の高い項目です 

食物系アレルギー 2項目

バナナ **豚肉**
特定原材料に準ずる20食品に含まれ、検査ニーズの高い項目です  

食物系アレルギーの青文字は表示義務・推奨食品に関連する項目です

主なアレルギー

吸入系	食物系
 室内アレルギーとして認知度が高まりつつあるガ・ゴキブリ	  花粉関連食物アレルギー症候群(PFS)*の代表的な症状誘発食品であるキウイ・リンゴ
 春の花粉症の原因となるだけでなく、花粉関連食物アレルギー症候群(PFS)*を合併することもあるハンノキ(属)・シラカンバ(属)	  特定原材料(表示義務)7品目 卵白、ミルク、小麦、ピーナッツ、ソバ、エビ、カニ  
 春のスギ・ヒノキ、初夏から秋に飛散するカモガヤ、晩夏から秋にかけて飛散するキク科のブタクサ・ヨモギ	 加熱卵摂取可能性の指標となるオボムコイド
 アトピー性皮膚炎の悪化因子の1つとされるマラセチア(属)、喘息の発症因子・難治化因子となるアスペルギルス	 仮性アレルギーによる症状と判別しにくいサバ

Viewアレルギー 39 はスクリーニング検査に適したアレルギーで構成されています

問診から確認すべきアレルギーの推定が難しい方



学童期以降のアトピー性皮膚炎の方

アトピー性皮膚炎の増悪因子のひとつであり、ダニ・スギについて高い抗体保有率が報告されているマラセチア(属)など、主要なアレルギーが搭載されています¹⁾。



アレルギー性鼻炎で花粉関連食物アレルギー症候群(PFS)*との合併が疑われる方

PFSの主要な感作アレルギーである、カバノキ科のハンノキ・シラカンバ、イネ科のカモガヤ、キク科のブタクサ・ヨモギが搭載されています。ハンノキ・シラカンバ花粉との関連が示唆され、報告も多いリンゴも同時に測定できます²⁾。



アレルギー性鼻炎・ぜんそくが疑われる方

喘息の発症原因・難治化因子になるだけでなく、ABPA(アレルギー性肺アスペルギルス症)の原因アレルギーであるアスペルギルス、喘息やアレルギー性鼻炎において高い感作率を示すガ・ゴキブリなど、重要なアレルギーが搭載されています³⁾⁴⁾。

*OAS 口腔アレルギー症候群) とも呼ばれています。 PFS は原因食物と同時に原因花粉の回避も重要です。

1) アレルギー・免疫12: 1728-1736, 2005 2) 特殊型食物アレルギーの診療の手引き 2015 3) アレルギー・免疫13: 548-554, 2006 4) 日耳鼻 105: 1181-1188, 2002

項目数が多いだけではありません 試薬の基礎性能が高いのがViewアレルギーの特長です

検討方法

再現性の比較

主要な8アレルゲンにおいて陽性を示す2検体を同日で3回測定し、これを3回くりかえしたところ…

	View アレルギー Index 値の CV (%)		他法測定単位の CV (%)	
	低濃度	高濃度	低濃度	高濃度
スギ	7.5	7.8	21.3	19.2
小麦	8.0	9.5	22.7	24.7

第47回日本臨床検査自動化学会大会演題番号329口演内容より一部抜粋

検討結果

再現性が良好なのはViewアレルギーでした

測定下限の評価

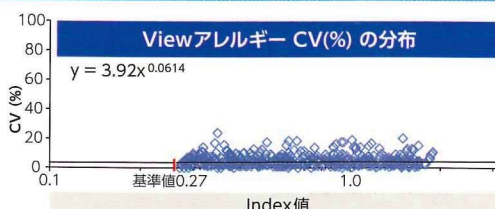
複数のアレルゲンにクラス2以下を示す検体を複数回測定し、CV 分布から回帰式を作成したところ…

社内検討データより

変動係数 (CV) とは？

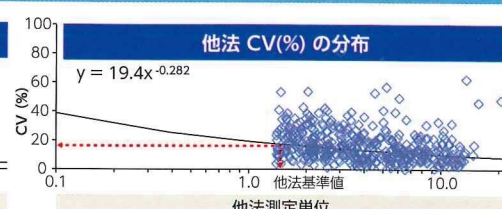
値が低いほどバラツキが少なく精度が高いことを示します。

陰性・陽性判定の信頼性が高いのはViewアレルギーでした



基準値 (0.27) 付近の CV : 3.62%

	許容限界とする CV		
	20%	15%	10%
回帰式より得られた値 (Index 値)	陰性域	陰性域	陰性域



基準値付近の CV : 17.6%

	許容限界とする CV		
	20%	15%	10%
回帰式より得られた値 (他法測定単位)	陰性域	2.49	10.5

回帰式が許容限界 CV に達する値が「陰性域」であれば、基準値は測定下限として適していることを示します

測定間のバラツキ

同一検体を3回測定したところ…

社内検討データより

再現性が良好なのはViewアレルギーでした

Viewアレルギー		n=1728
3回測定で一番高かった値	6	4 11
	5	15 20
	4	7 66
	3	22 225
	2	32 301
	1	42 172
	0	811
3回測定で一番低かった値		0 1 2 3 4 5 6
		クラス一致率 92.9%

他法		n=1584
3回測定で一番高かった値	6	1 8 54
	5	1 28 16
	4	26 79
	3	1 38 192
	2	10 64 225
	1	121 73
	0	647
3回測定で一番低かった値		0 1 2 3 4 5 6
		クラス一致率 81.2%

Viewアレルギーはアレルギー検査のゴールドスタンダード*であるイムノキャップと良好な相関を実現しました

イムノキャップとの相関

View アレルギーはイムノキャップ法と良好な相関がみられました

医学と薬学72(11) : 1901-1906, 2015

Viewアレルギーとイムノキャップのクラス相関 n=246

Viewアレルギー	6					1	7	陽性一致率 94.7%
	5					17	5	陰性一致率 89.5%
	4			4	21	4		判定一致率 93.0%
	3		3	38	3			クラス一致率 80.9%
	2		6	37	4			
	1	8	11	8				
	0	68	1					
		0	1	2	3	4	5	6
イムノキャップ								

他法とイムノキャップのクラス相関 n=246

イムノキャップ										n=240	
他法	6				5	8	15	10	陽性一致率 86.8%		
	5				2		4	1			
	4				14	8	3	1	陰性一致率 92.1%		
	3			11	17	8					
	2	1	1	19	6				判定一致率 88.6%		
	1	5	6	6	2						
	0	70	11	12					クラス一致率 54.5%		
		0	1	2	3	4	5	6			
イムノキャップ											

Viewアレルギー 36の結果です

*Global Atlas of Allergy: EAACI 2014

View アレルギー 39は 患者様のニーズに応える アレルギー検査です

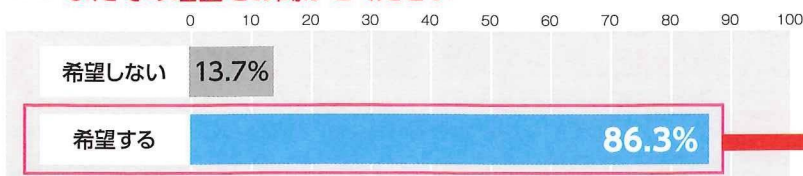


アレルギー性疾患と診断された患者様のうち、77%の方がアレルギーの原因を知りたいと考え、先生方とのコミュニケーションをしながらの診療を求めています。

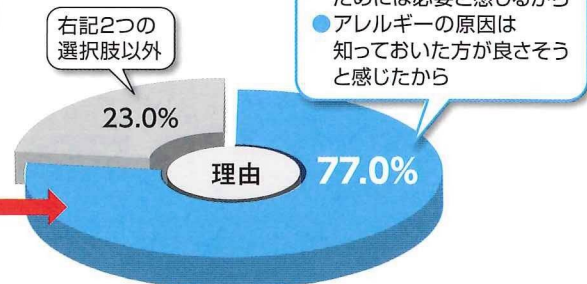
患者様に説明しやすい重要なアレルギーと先生方・患者様の役に立つサポート資材がそろっています。

保護者の77%が「アレルギーの原因を知っておきたい」と回答

Q お子さんがアレルギー疑いと診断されたら、検査を希望しますか？
またその理由をお聞かせください



全国の子供を持つ母親768名(20-49歳・平均35.0歳) [2012年調査 (株)クロス・マーケティング]



View アレルギー 39は患者様への充実した 情報提供を通して、アドヒアランスの向上を目指します



- ▶ 患者様向け指導箋は、先生方・患者様の声を取り入れた必要な情報で構成されています
- ▶ 患者様啓発用の資材として、待合室用ポスター・小冊子などをご用意しております
- ▶ Viewアレルギー39ご採用のお客様にすべてをワンセットにした「スタートキット」をお届けします

待合室掲示用
ポスター (A3)



患者様向けの
指導箋 (A4)



患者様啓発用
小冊子 (B6)



Viewアレルギー39情報資料のお届け *ご依頼いただいた翌営業日に東京より発送いたします

●パソコンから

検索キーワード **View アレルギー情報資料** で検索下さい。

または <http://www.phadia.com/ja/ViewAllergy-Request-Form-Japan/>

●スマートフォンから

右の QR コードからアクセスいただけます。.....▶



*診断には血液検査の結果だけでなく、詳細な問診、経口負荷試験などで総合的に評価する必要があります。
検査陽性、特に食物で多項目陽性の場合には、さらなる問診と既往歴の確認に加え、追加検査の実施などによる精査、または必要に応じてアレルギーを専門とされる先生への紹介を検討下さい。

Viewアレルギー

*当項目の結果報告は、クラス及びindex値となり、IgEシングルアレルギーと同一のUA/mL単位での報告は出来ませんのでご了承下さい。

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬区分番号	保険点数	保険収載名称
9877	特異的IgE Viewアレルギー39	血清	0.9mL	A1→A2	冷蔵	2～6	FEIA 法	View クラス：0 0.27 未満 index	D015-11	1,430	特異的 IgE 半定量・定量

*特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。
ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1,430点を限度として算定する。

シングルアレルギーコードは検査案内をご参照下さい。

FALCO biosystems

thermoscientific.com/phadia

© 2016 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved. All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific Inc. and its subsidiaries.
Manufacturer: Phadia AB, Uppsala Sweden.

サーモフィッシャーダイアグノスティクス株式会社

Thermo
SCIENTIFIC

A Thermo Fisher Scientific Brand